

条幅部自由参考

10月25日正午必着

明石春浦先生書



もんはこうかくによりてじはらい
門因二好客一時掃。窓爲レ看レ山面面開（繆鑑）高棲。

明石幸子書



たかまど
高圓の野邊の秋芽子いたづらに咲きか散るらむ見る人なしに（笠）
かなむら
金村



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

月到千家静 (陳后山)

月千家に到りて静

秋月は静かに家々を照らしている。

暗蛩寒蟬秋色老
丹楓紫菊夕陽斜

(劉基)

暗蛩寒蟬秋色老い、
丹楓紫菊夕陽斜なり。

すだく虫にも、しぐれる蟬にも秋の暮が知られ、
紅葉紫菊に夕陽がかたむいている。

題「江陵臨沙驛樓」 (司空曙)

江陵の臨沙の驛樓に題す 司空曙

江天清更愁 風柳入江樓
雁識楚山晚 蟬知秦樹秋
淒涼多獨醉 零落半同游
豈復平生意 蒼然蘭杜洲

江天 清くして更に愁え 風柳 江樓に入る
雁は識る 楚山の晩 蟬は知る 秦樹の秋
淒涼 多く独り酔い 零落 半ば同遊
豈に復た平生の意ならんや 蒼然たり 蘭杜洲

砂白き磯につくばひ 秋の日を 大海原に 手を浸し見る (窪田 空穂)

芳草水東西 春風路欲迷
歸時不覺晚 山與夕陽低

(西 陂)

西陂は、おのが寓居の西に在る隈で、この詩は、
即ち其の近傍の景色を敘したのである。

半紙部規定課題A

10月25日正午必着

秋建
夜禮
高

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

10月25日正午必着

行書

建禮高
秋夜

隸書

建禮高
秋夜

明石春浦先生書

草書

建禮高
秋夜

行草書

建禮高
秋夜

建礼門のほとり、さわやかな秋の夜 承明廬に夜明けを待ちつつ過す
九重の門の奥にひやかな漏刻の音も尽き 市街の処々より、暁の鐘があまた鳴り響く
月の光ははるかに、真珠のような星をおおいかくし 雲は消え去って、天の川があらわれる
いまさらながら慚ずかしく思う、この老い衰えた身を以て 南の街路に、貴方と玉飾りを鳴らしつつ駒を並べて行くのが

與崔員外秋直

王維

建禮高秋夜

承明候曉過

九門寒漏徹

萬井曙鐘多

月迴藏珠斗

雲銷出絳河

更慚衰朽質

南陌共鳴珂

崔員外と秋に直す

王維

建禮高秋の夜

承明に 暁を候ちて過ぐ

九門 寒漏徹し

萬井 曙鐘多し

月迴かにして 珠斗を蔵し

雲銷えて 絳河出す

更に慚ず 衰朽の質の

南陌に 共に珂を鳴らすことを

(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より

張丑為質於秦

張丑、(燕に)質となる。

雨宮春聲先生臨書



(西に(軍し)、齊は其の東に軍す。楚の軍、還らんと欲するも得べからざるなり。景陽乃ち開き……)

(師)これを怪む。以為く燕楚、魏とともにこれを謀る、と。乃ち兵を引きて去る。齊の兵、師乃ち還る。

張丑、燕に質となる。燕王これを殺さんと欲す。走りて且に竟を出でんとす。竟吏、丑を得たり。丑曰く、

「燕王の為に將に我を殺さん」

(残紙全体は九月号参照)

晋・楼蘭晋紙残片(残紙)

後漢王朝が滅び、魏・蜀・呉の三国が分立した時代(二二〇～二八〇)に入ると、漢代の正式書体であった隸書も立碑の禁止の影響もあって、儀礼的な用途のみに限定されるようになり、後の西晋(二六五～三一六)から東晋時代(三一八～四二〇)へと遷り変わる間に、一般には篆隸を簡略化した楷・行・草書が広く使用されるようになった。ただ、書体的には過渡的な時代であり、その美しさを完成するにはいたらなかった。

一方、西晋の武帝が崩御すると、王位継承をめぐる内乱がおこり、一時動揺を来した王朝の際に乘じて、北方から西域にかけて五つの胡族が次々に小国を興し、約百三十年の間各地方に分立して抗争を続けていた。その主な十六の国を取りあげて、五胡十六国時代と呼んでいる。

この残紙は一九〇一年スウェーデンの探検家ヘーデンにより中国西域の樓蘭遺跡付近で発見された紙文書である。残紙には信書(手紙)やその草稿と思われるものがあるが、他にわずかに書籍がある。これは「戦国策」の燕に関係する部分であると言われている。今世紀始めに、西域地方においてこれら数多くの肉筆の木紙文書がつぎつぎに発見されたが、隸書から行・草書への移行期の書風を伝える資料として大変貴重であり、極めて遠隔の地にあった、かの書聖・王羲之の筆法とつながるところが見られるものもあり、まことに興味深い。(春濤)

10月25日正午必着

怪之以為楚與魏謀之乃弔兵而
去齊兵師乃還張丑為質於秦王
欲歆之走且出竟吏得丑
臨口

(師)これを怪む。以為く燕楚、魏とともにこれを謀る、と。乃ち兵を引きて去る。齊の兵：師乃ち還る。
張丑、燕に質となる。燕王これを殺さんと欲す。走りて且に竟を出でんとす。竟吏、丑を得たり。

《做書參考》

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

欲人勿聞莫若勿言欲
人勿知莫若勿為

ひとのきくならんことをほつすれば
欲二人勿レ聞

いふことなきごとくはなく
莫レ若レ勿レ言

ひとのしるなきをほつすれば
欲二人勿レ知

なすなきにしくはなし
莫レ若レ勿レ為

(枚 乗)

言行は慎むべきである。

10月25日正午必着

教育部毛筆

郷愁

きょう
郷

しゅう
愁

中学一年

雨宮春聲先生書

落穂

おち
落

ほ
穂

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

自覚

じ
自

かく
覚

小学五年

榎戸春龍先生書

敬老

けい
敬

ろう
老

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

10月25日正午必着

化学

藤田幸春先生書

か
化

がく
学

小学三年

英国

細谷春誠先生書

えい
英

こく
国

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

れ

っ

小学一年・幼年



森戸春濤書

ひか
光

る

小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

日本はたいへん貿易
のさかなな国です

小学五年

洗いたての衣服を着
るのは気持ちがい

小学六年

自分の幼年時代の習慣や
楽しみごとを思い出す

中学

太陽が花を彩るように芸術
は様々な色に人生を彩る

一般(級位)

秋風のそら晴れぬれば 千曲川 しろき河原に 出てあそぶかな (若山牧水)

秋風のそら晴れぬれば 千曲川
しろき河原に 出てあそぶかな

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

な	な
み	み
木	木
道	道
の	の
お	お
ち	ち
葉	葉

小学四年

を	山
ふ	で
ん	ら
で	の
帰	の
り	長
ま	い
す	石

小学三年

く	こ
と	の
え	方
き	こ
が	う
あ	に
る	行

小学二年

ん	あ
字	た
を	ら
な	し
ら	い
う	
	か

小学一年

な	わ
	た
し	が
ろ	し
い	の
く	よ
も	う

幼年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

秋はいぬ 風は木葉は ちりはてゝ 山さびしかる 冬はきにけり (源実朝)

秋はいぬ 風は木葉は ちりはてゝ 山さびしかる 冬はきにけり

実朝

岩本景楓先生書

11月号予告

一般半紙部規定

王維『與崔員外秋直』から「承明候曉過」

条幅部・半紙部臨書課題「北魏・元顯傳墓誌」

和洋
折衷

中学二・三年

強念
信念

小学六年

千羽
づる

小学四年

子ね
こ

小学二年

芸術
作品

中学一年

喜び
の声

小学五年

とけ
いと

小学三年

し
す

小学一年・幼年

秋の夜に月も星も降りて降るものは
金たしなふ紅きうなりけり

ペン字(段位)

心に残るのは千の忠告
より一つの行為である

ペン字(級位)

学問の道は他なり其の
放心を求むるにあり

中学

小さな体に大きな望
みを持った一寸法師

小学六年

天気が良いので愛
犬と散歩をした

小学五年

宿だいを終えてか
ら遊びに行きます

小学四年

大切にし
た

小学三年

早口とば
す

小学二年

足もとに
き

小学一年

あかい
を

幼年